

平成 21 年 6 月 3 日現在

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18730196

研究課題名(和文) ミクロデータからみたインド労働市場の構造と変動

研究課題名(英文) Studies on the structural changes in India's labor markets: Evidence from micro data

研究代表者 佐藤 隆広 (SATO TAKAHIRO)

神戸大学・経済経営研究所・准教授

研究者番号：60320272

研究成果の概要：

本研究の特筆すべき研究成果は以下の3点にある。第一に、解雇規制がインド労働市場に与える効果を事業所レベルのミクロデータや州パネルデータなどを通じて分析した。第二に、労働市場にかかわるデータ整備を行い、そうしたデータの一部を用いてインド経済のマクロ分析を行った。第三に、家計調査のミクロデータを用いて、労働供給の規定的要因である人口問題や貧困層向けに政府が自営を奨励したり賃金雇用を提供したりする貧困対策事業などの政策評価、などの実証分析を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,100,000	0	1,100,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	330,000	3,730,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：開発のミクロ経済学、労働市場、インド、ミクロデータ、貧困

1. 研究開始当初の背景

インド経済は現在、高い経済成長を持続させているが、依然として貧困問題が深刻である。必須カロリーを摂取できない絶対的貧困層が国民の2割から3割程度も存在している。絶対数でいえば、2億人以上ものひとびとが絶対的貧困の状況におかれているのである。こうした絶対的貧困問題の解決にあたって、貧困層の多くが非正規の賃金労働者であるため、彼らが貧困からの脱却を図っていくうえで労働市場の発展や統合が極めて重要になってくる。

しかし、我が国において、インド労働市場に関する研究蓄積は一定程度の進展がみられるものの、首尾一貫した統計資料のもと、検証可能な理論仮説に基づいて、労働市場の構造や変化を解明した研究が必ずしも多くないのが現状であった。

研究蓄積が不十分であることの原因は2つあると思われる。第一は、インド労働市場に関する統計資料の体系的な収集とその整理がまだ十分ではないこと、第二は、インド労働市場分析を行う際の方法論がきちんと詰められていない、ということである。

2. 研究の目的

インド労働市場の変化を詳細に跡付けるためには、十分な質と量を持つ統計データの蓄積が必要である。さらに、開発ミクロ経済学をはじめとする開発経済学に基づく理論仮説に基づいて、データ整備とデータを用いた定量的な労働市場分析を行うことが本研究の目的であった。

統計データの収集という面では、本研究はその資金の多くをインド政府の全国標本調査機構 (National Sample Survey Organisation) が学術研究に限って有償公開している全国標本調査のマイクロデータ購入とそのデータの整備のための謝金に充当した。全国標本調査機構が提供しているすべてのマイクロデータを収集することが目的であった(確認した限りでは、現地でデータをすべて購入することができた)。

とくに、本研究は、インド政府が行う労働政策の評価に力点を置いた。労働政策にかかわる問題としては、フォーマルセクターにおける解雇規制が労働市場に与える影響とインド政府が貧困層向けに自営を奨励したり賃金雇用を提供したりする貧困対策事業の効果、の2つの論点を解明しようとした。さらに、労働供給の規定的要因である人口問題を分析することも、本研究の重要な課題として設定した。こうした諸論点の解明は、インド経済の持続的な成長を実現するうえでの労働市場の役割を再考することにもなることが期待された。

3. 研究の方法

膨大なデータを扱うための統計処理方法を研究し、インド労働市場の諸問題を検討するうえで開発ミクロ経済学や動学マクロ経済学の知見を活用した。

たとえば、解雇規制の雇用に与える影響を分析した Takahiro Sato "Labour Demand in India's Textile and Garment Industries" は企業が雇用調整を行ううえで調整費用がかかるという側面を企業の動学的利潤最大化問題に組み入れた理論モデルを構築したうえで、解雇規制の効果に関する比較静学分析を行っている。

理論仮説の検証の際には、パネル分析や質的従属変数モデルなどの計量経済学の手法を用いた。

たとえば、同上論文では、インフォーマルセクターのマイクロデータとフォーマルセクターの州パネルデータを用いて、理論仮説の統計的な検証を行っている。

以上のような理論モデル構築と理論仮説の検証という研究上の手続きは、Katsushi Imai and Takahiro Sato "Fertility, Parental Education and Development in India" など

でも踏襲している。

また、明示的に理論モデルを構築していないその他の諸論文においても、できるだけ、開発ミクロ経済学や動学マクロ経済学の理論仮説を意識したうえで、データを用いた実証分析を行っている。

4. 研究成果

本研究の研究成果としては以下のようにとりまとめることができる。

(1) 解雇規制がインド労働市場に与える効果を事業所レベルのマイクロデータや州パネルデータなどを通じて分析した。Takahiro Sato "Labour Demand in India's Textile and Garment Industries" の分析から、解雇規制が、第1にフォーマルセクターにおける繊維産業の労働需要を減退させること、第2にフォーマルおよびインフォーマル部門における労働需要の賃金弾力性を高めること、などを明らかにした。また、佐藤隆広「インドにおける成長と雇用」や Takahiro Sato "Growth and Employment in India" などの分析では、製造業部門全体の雇用に与える解雇規制緩和とグローバリゼーションの影響を分析した。分析結果から、解雇規制緩和とグローバリゼーションは必ずしも直接に雇用を創出するわけではなく、雇用の賃金弾力性を高め、雇用の生産弾力性を低めることがわかった。

(2) 労働市場にかかわるデータ整備を行い、そうしたデータの一部を用いてインド経済のマクロ分析を行った。たとえば、佐藤隆広「インド経済の生産性分析」や Takahiro Sato "Empirical Analysis of Productivity Growth in India" では、近年の製造業部門の生産性の傾向的な下落を製造業部門からサービス部門への熟練労働者 (skilled workers: 高等教育を受けた専門職・管理職) の労働移動に求めている。ここから、熟練労働者層の労働市場に十分な厚みが存在していないことを示唆した。関連文献としては、この他に佐藤隆広「インド経済をどうみるか」や佐藤隆広「インド製造業の生産性分析」などがある。また、インドの貧困の実態を解説した佐藤隆広「インド経済入門」において、農業労働世帯がインドの絶対的貧困層の主体を形成していることを強調し、農業労働世帯に注目するという、インド労働市場をみる上での基本的な視角を明示した。

(3) 家計調査のマイクロデータを用いて労働供給の規定的要因である人口問題を、Katsushi Imai and Takahiro Sato "Fertility, Parental Education and Development in India" において分析した。これは、1993年・1999年・2004年の全国標本調査のマイクロデータと1992年・1998

年・2005年の全国健康保健調査のマイクロデータの両方を利用して出生率の決定要因を分析したものである。とりわけ、女性の教育水準の向上と女性の社会進出が出生率の低下に結びつくことがわかった。

- (4) 貧困層向けに政府が自営を奨励したり賃金雇用を提供したりする貧困対策事業などの政策評価などの分析を、Takahiro Sato "Who are the Beneficiaries of the Poverty Alleviation Programs in Rural India?"で行った。これは、インドの全国標本調査のマイクロデータを用いて、インドにおける地方分権化が貧困緩和計画の配分によどのような影響を与えているのかを実証的に分析している。この研究からは、地方分権化が必ずしも農村弱者層に恩恵をもたらすものではないことが明らかになった。
- (5) 本研究課題を遂行するうえで、労働者数や労働分配率などをはじめとする各種のマクロ経済統計も整理したが、そうした統計の整理を通じてインド労働市場がその下で機能しているインド・マクロ経済構造全体の分析も行うことができた。こうした成果は、佐藤隆広編『インド経済のマクロ分析』に結集した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 10 件)

- ① Takahiro Sato "Growth and Employment in India: The Impact of Globalisation on Employment in the Indian Manufacturing Industries," in Hideki Esho and Takahiro Sato (eds.), *India's Globalising Political Economy: New Challenges and Opportunities in the 21st Century*, Tokyo: The Sasakawa Peace Foundation, pp. 247-268、査読無し。
- ② 佐藤隆広「インドにおける成長と雇用：グローバル化が製造業部門雇用に与える影響を中心として」『比較経済研究』第46巻第1号、比較経済体制学会、2009年1月、53-68頁、査読無し。
- ③ 佐藤隆広「インド製造業の生産性分析：「年次工業調査」データを用いて」『国民経済雑誌』第199巻第1号、神戸大学経済経営学会、2009年1月、67-79頁、査読無し。
- ④ 佐藤隆広「インド経済の生産性分析」『インド経済のマクロ分析』世界思想社、2009年1月、17-42頁、査読無し。
- ⑤ 佐藤隆広「インド経済をどうみるか」『インド経済のマクロ分析』世界思想社、2009年1月、1-15頁、査読無し。

- ⑥ Katsushi Imai and Takahiro Sato "Fertility, Parental Education and Development in India: Evidence from NSS and NFHS in 1992-2006," *BWPI Working Paper* 63, Manchester University, 2008, 41pp、査読無し
- ⑦ Takahiro Sato "Labour Demand in India's Textile and Garment Industries: A Comparative Analysis of Organized and Informal Sectors," in M. Murayama and H. Sato (eds.) *Globalization, Employment and Mobility: The South Asian Experience*, Palgrave Macmillan, May 2008, pp.199-227, 査読有り。
- ⑧ Takahiro Sato "Empirical Analysis of Productivity Growth in India," *SPF India Study Group Working Paper Series*, No.7, The Sasakawa Peace Foundation, March 2008, 27pp、査読無し
- ⑨ 佐藤隆広「インド経済入門」『経済学雑誌』(大阪市立大学経済学会)第108巻別冊(後期)、2007年10月、50-62ページ、査読無し。
- ⑩ Takahiro Sato "Who are the Beneficiaries of the Poverty Alleviation Programs in Rural India?" *SPF India Study Group Working Paper Series*, No.2, The Sasakawa Peace Foundation, March 2007, 29pp、査読無し。

[学会発表] (計 11 件)

- ① Takahiro Sato "Growth and Employment in India: The Impact of Globalisation on Employment in the Indian Manufacturing Industries," 京都学園大学経済学部、2009年3月19日。
- ② Takahiro Sato "Growth and Employment in India: The Impact of Globalisation on Employment in the Indian Manufacturing Industries," at the seminar in Institute for Studies in Industrial Development, New Delhi, India, on February 25, 2009.
- ③ Takahiro Sato "Fertility, Parental Education and Development in India: Evidence from NSS and NFHS in 1992-2006," 同志社大学経済学部、2008年11月11日。
- ④ 佐藤隆広「インド経済をどう見るか：総要素生産性(TFP)・市場経済発達・政策トリレンマ」アジア太平洋研究会研究大会、エスカル神戸、2008年7月27日。
- ⑤ 佐藤隆広「インドにおける成長と雇用：グローバル化が製造業部門雇用に与える影響を中心として」比較経済体

- 制学会全国大会, 高崎経済大学, 2008年6月1日.
- ⑥ 佐藤隆広「インド経済の生産性分析」アジア政経学会西日本大会、福岡大学、2007年6月3日。
- ⑦ Takahiro Sato "Who are the Beneficiaries of the Poverty Alleviation Programs in Rural India?" Indian Council for Research on International Economic Relationships (ICRIER), New Delhi, India, February 20, 2007.
- ⑧ 佐藤隆広「インドのマクロ経済：総要素生産性(TFP)・市場発達・政策トリレンマ」日本南アジア学会、大阪市立大学、2007年10月7日。
- ⑨ 佐藤隆広「インド繊維産業の労働需要構造」日本国際経済学会関西支部研究会、大阪産業大学梅田サテライト教室、2006年9月16日。
- ⑩ Takahiro Sato "Labour Demand in the India's Textile and Apparel Industries", Indian Council for Research on International Economic Relationships (ICRIER), New Delhi, India, August 24, 2006.
- ⑪ Takahiro Sato "Who are the Beneficiaries of the Poverty Alleviation Programs in Rural India?" Institute for Social and Economic Change (ISEC), Bangalore, India, August 22, 2006.

[図書] (計 2件)

- ① 佐藤隆広編『インド経済のマクロ分析』世界思想社、2009年1月、ix+282頁。
- ② Hideki Esho and Takahiro Sato (eds.), India's Globalising Political Economy: New Challenges and Opportunities in the 21st Century, Tokyo: The Sasakawa Peace, March 2009, vi+278pp.

[その他]

ホームページ:

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/academic/ResearchStaff/sato-j.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 隆広 (TAKAHIRO SATO)
神戸大学・経済経営研究所・准教授
研究者番号: 60320272

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者